

平成19年度「東京都環境影響評価審議会」第二部会（第5回）

日時：平成19年12月12日（水）午前10時～
場所：都庁第二本庁舎31階 特別会議室21

— 会 議 次 第 —

1 審 議

- (1) 「富士見二丁目10番地区市街地再開発ビル建設事業」環境影響評価調査計画書に係る項目選定及び総括審議
- (2) 「大井ふ頭その1・その2間埋立事業」環境影響評価調査計画書に係る項目選定及び総括審議
- (3) 「府中都市計画道路3・2・2の2号東京八王子線及び国立都市計画道路3・3・2号東京八王子線（府中市西原町二丁目～国立市谷保間）建設事業」環境影響評価調査計画書に係る項目選定及び総括審議
- (4) 「業平橋押上地区開発事業」環境影響評価書案に係る項目別審議

2 その他

【配布資料】

資料1 「富士見二丁目10番地区市街地再開発ビル建設事業」環境影響評価調査計画書

資料1-1 環境影響評価調査計画書に係る環境影響評価の項目選定及び項目別審議について

資料1-2 「富士見二丁目10番地区市街地再開発ビル建設事業」に係る環境影響評価調査計画書について(案)

資料2 「大井ふ頭その1・その2間埋立事業」環境影響評価調査計画書

資料2-1 環境影響評価調査計画書に係る環境影響評価の項目選定及び項目別審議について

資料2-2 「大井ふ頭その1・その2間埋立事業」に係る環境影響評価調査計画書について(案)

資料3 「府中都市計画道路3・2・2の2号東京八王子線及び国立都市計画道路3・3・2号東京八王子線（府中市西原町二丁目～国立市谷保間）建設事業」環境影響評価調査計画書

資料3-1 環境影響評価調査計画書に係る環境影響評価の項目選定及び項目別審議について

資料3-2 「府中都市計画道路3・2・2の2号東京八王子線及び国立都市計画道路3・3・2号東京八王子線（府中市西原町二丁目～国立市谷保間）建設事業」に係る環境影響評価調査計画書について(案)

資料4 「業平橋押上地区開発事業」環境影響評価書案

資料4-1 審議資料（地盤）

資料4-2 審議資料（水循環）

12/21 総会

平成19年度「東京都環境影響評価審議会」第二部会 座席配置

日時：平成19年12月12日(水) 午前10時～

場所：都庁第二本庁舎31階 特別会議室21

審議会会長

井手委員

第二部会長

山本委員

坂本委員

藤吉委員

柳 委員

山下委員

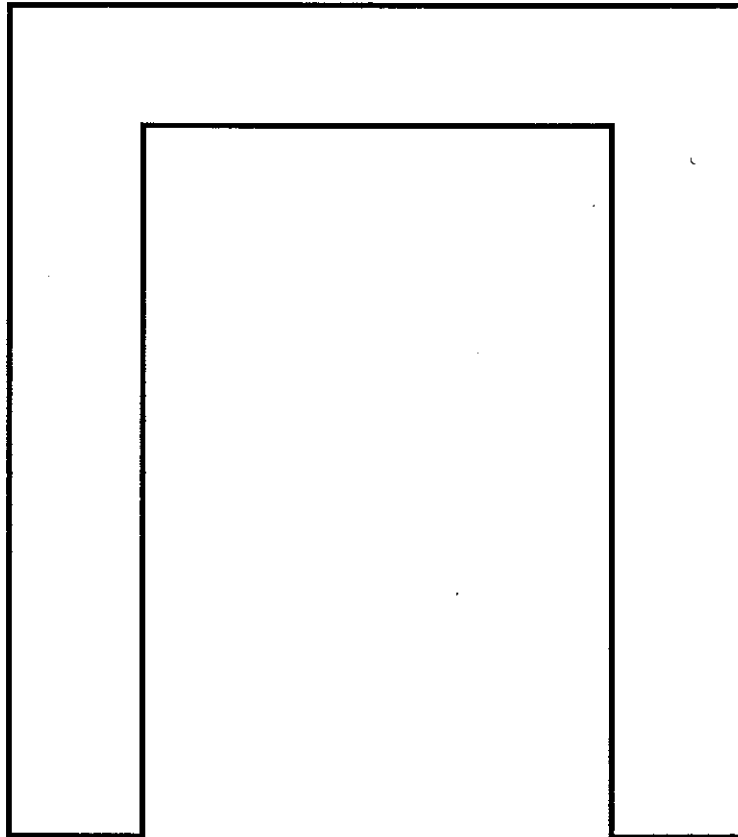
佐藤専門員

市川委員

伊藤委員

奥水委員

小林委員



川村アセスメント
担当副参事

近藤環境影響
評価課長

大野都市地球
環境部長

金子アセスメント
担当副参事

第二部会 審議資料

資料 4 - 1

(事業名) 業平橋押上地区開発事業

部会審議項目(11) 大騒盤循日電風景 自 廢 温 (は終了)

(環境影響評価の項目) 地盤(選定した項目) (年月日) 平成19年12月12日

項 目	環境影響評価書案	環境影響評価書案 関連頁
現 況 調 査	(1) 調査事項 (2) 調査地域 (3) 調査手法 (4) 調査結果	P. 151～164
予 測	(1) 予測事項 掘削工事における地下水位の低下及び山留壁の変位による地盤の変形の程度について (2) 予測の対象時点 (3) 予測地域 (4) 予測手法 (5) 予測結果	P. 165～166
環境保全のための措置		P. 167
評 価		P. 167
都民の主な意見	あ り (別紙1のとおり)	
関係区長の意見	あ り (別紙1のとおり)	
項目検討の内容	(1) 検討年月日 平成19年11月22日 (2) 担当委員 田中正委員 (3) 検討結果 意見あり (別紙2のとおり)	

第二部会 審議資料

資料 4 - 2

(事業名) 業平橋押上地区開発事業

部会審議項目(11) 大騒盤循日電風景 目 歴 温 (は終了)

(環境影響評価の項目) 水循環 (選定した項目) (年月日) 平成19年12月12日

項 目	環境影響評価書案	環境影響評価書案 関連頁
現 況 調 査	(1) 調査事項 (2) 調査地域 (3) 調査手法 (4) 調査結果	P. 169~171
予 測	(1) 予測事項 土地の改変に伴う地表面流出水量の変化 の程度 (2) 予測の対象時点 (3) 予測地域 (4) 予測手法 (5) 予測結果	P. 172~173
環境保全のための措置		P. 173
評 価		P. 173
都民の主な意見	あ り (別紙1のとおり)	
関係区長の意見	あ り (別紙1のとおり)	
項目検討の内容	(1) 検討年月日 平成19年11月22日 (2) 担当委員 田中正委員 (3) 検討結果 意見あり (別紙2のとおり)	

都民の主な意見

- ① 開発地域の地盤は、GL下、30m厚さで泥層が存在するほか地下水流、水位レベルも考え併せると極めて軟弱地盤であり、大地震となった場合、液状化による基礎杭、壁、構造物への影響は避けられないのではないかと心配です。
- ② 掘削工事に際しては、山留壁で囲まれた掘削区域内の地下水位を掘削底面まで低下させるため、第一帯水層である不圧地下水の低下が予測されると述べていますが、工事完了後は全て現状に復帰するのでしょうか。
ソイルセメント柱列壁の巨大な箱が地下26mまで構築されれば、不圧地下水といえども多少の流れをもつわけですから影響ゼロとは考えられません。
不圧地下水の流速・方向と地下構造の関係を示してこの疑問に答えて下さい。
評価書案によると、結局は、5箇所の貯水槽の設置にすぎず、その貯水量は1,850 m³にすぎないものです。かりに一日あたり100mmの降雨量があると3.67haに降り注ぐ量は3,670 m³になるので半分以上が下水に放流されることとなります。
敷地面積にゆとりもあるのですから、貯水量を5,000 m³程度に引き上げることを求めたいと思います。
- ③ 「東京都(区部)大深度地下の地盤」をもちいていますが、地下50m以下の地盤の状況について記述はありません。ありきたりの既存資料を紹介するだけでは、極めて不十分です。

関係区長の意見

【墨田区長】

- ① 本事業地は軟弱な地盤であり地下常水位も非常に浅く、併せて地下鉄や河川に近接していることから、地盤沈下が起こらないよう可能な限りの対策を講じられたい。
- ② 地下水観測井については施設建築物等供用後も存置し、定期的な観測に努められたい。
- ③ 雨水利用設備の設置に関しては、区と十分協議を行われたい。
- ④ 敷地については、水循環保全の観点から緑地を最大限確保すると共に、浸透性ブロックや透水性舗装など雨水の浸透にも努められたい。

【台東区長】

なし

【江東区長】

墨田区、江東区及び中央区・足立区・江戸川の一部の下水は、砂町水処理センターに集積され、砂町運河に放流されています。評価書案では、雨水を一時的に貯留（ピークカット）し、下流の下水道施設の負担を軽減するとされていますが、台風等においても下流域での浸水等を起こさないよう十分な対策を講じてください。

【葛飾区長】

なし

項目：地盤、水循環

意見	意見の取扱いについての事務局案
<p>1 事業の実施に当たっては、現地のボーリング調査結果や採用する工法などを踏まえて、地下水位の低下等による地盤への影響が生じないように配慮すること。</p> <p>また、施設供用後の地下水位の回復状況を確認するため、施設完成後も地下水観測井を存置し、定期的に観測すること。</p>	<p>指摘の趣旨を答申案に入れる。</p>
<p>2 「墨田区良好な建築物と市街地の形成に関する指導要綱」により、墨田区では雨水の貯留・浸透が推進されている。</p> <p>このため、事業の実施に当たっては、なお一層の雨水貯留に努めるとともに、雨水浸透の具体的な方策についても明らかにすること。</p> <p>また、北十間川に隣接している当計画地は、都市型水害の防止や高潮対策への配慮が必要な地域であることから、雨水の浸透について定量的に明らかにし、雨水流出抑制効果についても記述すること。</p>	<p>同上</p>
<p>3 計画地は地盤高が低く、第一帯水層である不圧地下水が浅い位置に存在することから、掘削工事に伴い水位の変化が予想される。</p> <p>このため、施設構造物完成後の地下水位の変化について予測し、液状化対策についても可能な限り記述すること。</p>	<p>同上</p>